

# 令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【美園小】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】 国語では、文法、漢字などの基礎的な内容に課題がみられた。算数でも、基礎的な問題である四則計算や面積や体積を問われる問題に課題がみられた。 【指導上の課題】 児童が反復・習熟に取り組む時間の設定が不十分である。	⇒ 授業中や家庭学習で、「ドリルパーク」「スタディサプリ」等のアプリを活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む。【週1回の学習タイム】学習履歴を確認し、個に応じた指導を行う【月に1度は確認】
思考・判断・表現	【学習上の課題】 自らの学びをメタ認知し、自己調整していく力が弱い。 【指導上の課題】 児童が自らの学びを振り返る時間を確保できていない。	⇒ 授業中に児童が自らの学びを振り返る時間を設定し、次の学びに生かせるようにする【毎時間設定】。また、振り返りをふまえて、授業において、児童とともに必要感のある課題を設定したり、児童が主体的に課題を解決したりする場を設定する【毎授業で10分実施】。

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		結果提供(2月)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語も算数も全国学力・学習状況調査の全国平均正答率と比較して高かった。国語では、「言葉の特徴や使い方」に課題がみられた。その中でも主語と述語との関係をつかえる問題の正答率が低かった。また、漢字の書き取りの正答率も低かった。タブレット端末を活用して考えや感想を書かせることも増え、実際に漢字を書く機会が少なくなったことも一要因として考えられる。算数では、「変化と関係」に課題がみられた。その中でも「速さ」の問題の正答率が低かった。速さなどの単位量あたりの大きさの意味や表し方についての理解できていない児童がいた。日常生活と関連付けながら授業できるようにする。	
思考・判断・表現	国語も算数も全国学力・学習状況調査の全国平均正答率と比較して高かった。国語では、記述式の問題で、事実と意見、理由を区別せず、与えられた条件を満たすことができない児童が多かった。分かりやすく自分の考えを書くことに課題がみられた。算数では、「図形」において課題がみられた。球の直径の長さと同立方体の一面の長さの関係をつかえ、立方体の体積を求める問題では、体積の単位とこれまで学習した単位との関係を考察できていない児童が多かった。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	「ドリルパーク」「スタディサプリ」等のアプリの活用は週に1度取り組むことができた。しかし、クラスや個人によって差が見られた。学習履歴を確認し、個に応じた指導を行うことはできた。	今までの授業改善策に加え、学習した内容を自分の生活と関連付けながら活用できる知識・技能を修得させるようにする。単元のつながり意識し、教科横断的に授業を計画する。【毎時間】
思考・判断・表現	B	授業において、児童とともに必要感のある課題を設定したり、児童が主体的に課題を解決したりする場を設定することができた。しかし、振り返りができない授業もあった。また、振り返りを次時に生かす工夫も必要であった。	今までの授業改善策に加え、子どもの思考を促すために、教師が言葉を大切に的確な発問をするようにする。【毎時間】

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)